

石油価格が急騰している。そこで、一層のコスト低減とCO₂削減を図るため、省エネルギーセンター診断指導部より講師をお招きし、10月1日と4日の2日に分けてビルと工場の省エネ事例を紹介戴いた。

部門別CO₂排出量では、業務部門(ビル)は1990年に比べ、2005年には44%と最も増加している。昨年の省エネ法改正により省エネ措置の届出義務が拡大されたが、全国約4,000ヶ所の建物に適用されているだけでカバー率は13%に過ぎない。そこで、ビルには省エネ改善余地が残されている。

特にビルの空調は80%の時間は設備能力の35%以下の負荷しか掛かってないが、CO₂濃度の定期検査結果が活かされておらず、必要以上の換気が行われており、不必要なエネルギーが使われていることが多い実態が分かっている。

事例として、換気バーン開度を手動で狭くする、朝の冷暖房開始時間を遅らせるなど、設備改修なしで8年連続6%の削減を達成した福岡市立総合図書館などの取り組みなどを紹介戴いた。

工場の省エネも様々な業種の様々な事例を紹介戴いた。なお、省エネセンターでは無料診断を実施しているので、申し込み戴き、省エネに取り組んで戴きたい。

エネルギー起源CO₂排出量 (億トン/年)

	1990年	2005年	増減
産業部門	4.8	4.6	-5.5%
運輸部門	2.2	2.6	+18.1%
業務部門	1.6	2.4	+44.6%
家庭部門	1.3	1.7	+36.9%
発電所ほか	0.7	0.8	+15.7%
合計	10.6	12.0	+13.6%

ビルの平均光熱水費 (円/㎡・年)

	光熱費	用水費
事務所	3,540	740
スーパー	4,600	1,260
ホテル	4,890	2,760
病院	5,170	2,120
備考	電力:15円/kWh A重油:60円/L	上下水道: 760円/㎡